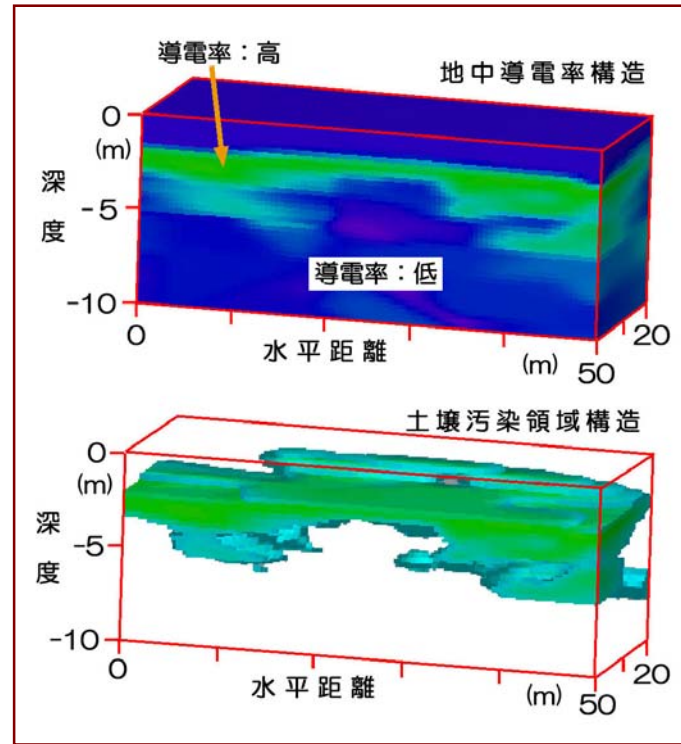


更に、ボーリング調査を併用することにより、解析精度が向上し、汚染土壌の容積を求めることが可能となります。

産業廃棄物の3次元立体図

(適用例)

環境調査用簡易ボーリングマシン



- 産業廃棄物の堆積分布状況をスリングラムEM探査法で明らかにした事例です。
- 探査結果を3次元立体イメージとして表現しました。
- 適切な導電率をしきい値として設定することにより、土壌汚染領域を自動的に判定させると共に、その容積を求めることが可能になります。

名称 : インパクトコアドリル
 回転トルク : 52 ~ 110 N-m
 回転数 : 50 ~ 200 rpm
 打撃数 : 50 回/秒
 フィード : 手動
 質量 : 940N
 設計 : 川崎地質(株)

本技術に関する詳しい技術資料を用意しております。下記の事業所、あるいは当社のホームページ <http://www.kge.co.jp> までご請求下さるようお願いいたします。

川崎地質株式会社

〒108-8337 東京都港区三田 2-11-15 (三田川崎ビル) 技術本部
 TEL.03-5445-2077, FAX.03-5445-2093
 URL : <http://www.kge.co.jp> Mail : kgetec@kge.co.jp

皆様の担当事業所

産業廃棄物の堆積状況調査

—明日の生活環境を護るために—

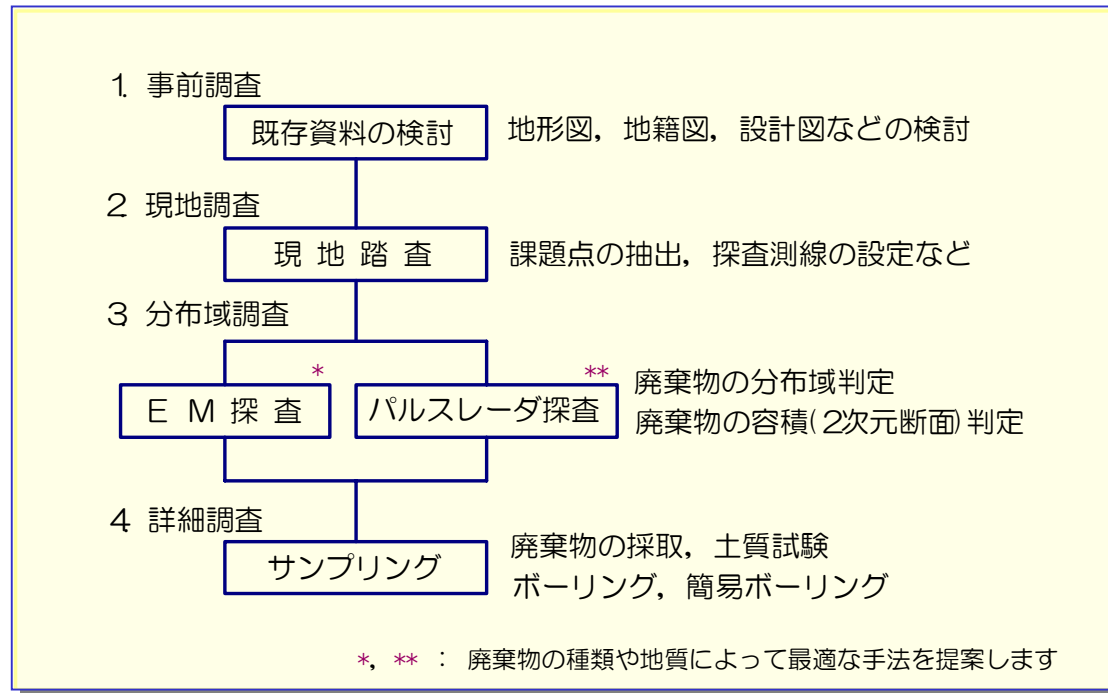


産業廃棄物処分場で実施中のEM探査法

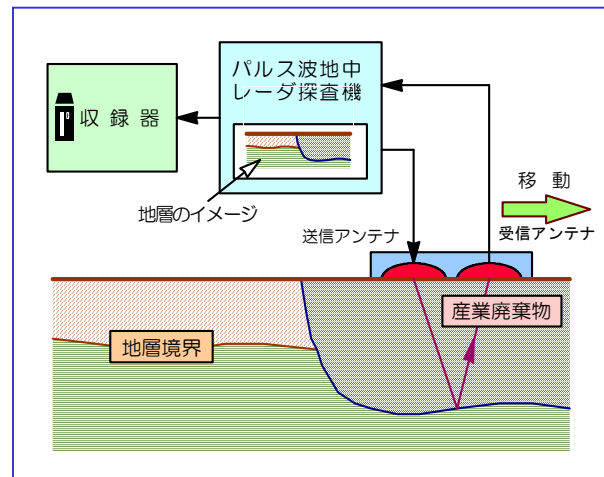
川崎地質株式会社

当社は、廃棄物の堆積状況を把握する手段の一つとして、パルス波地中レーダ探査を提案します。

防空壕調査の実施フロー

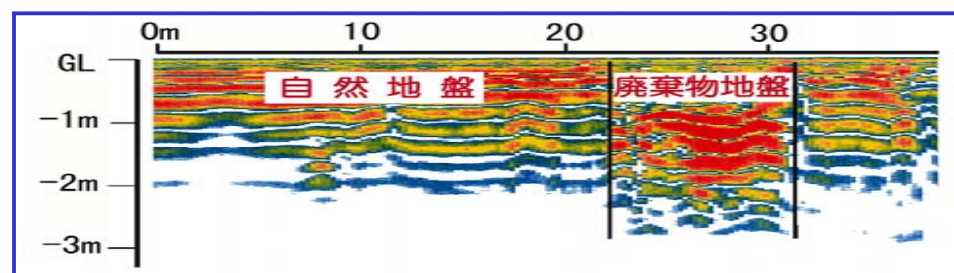


パルス波地中レーダ探査



技術的特徴

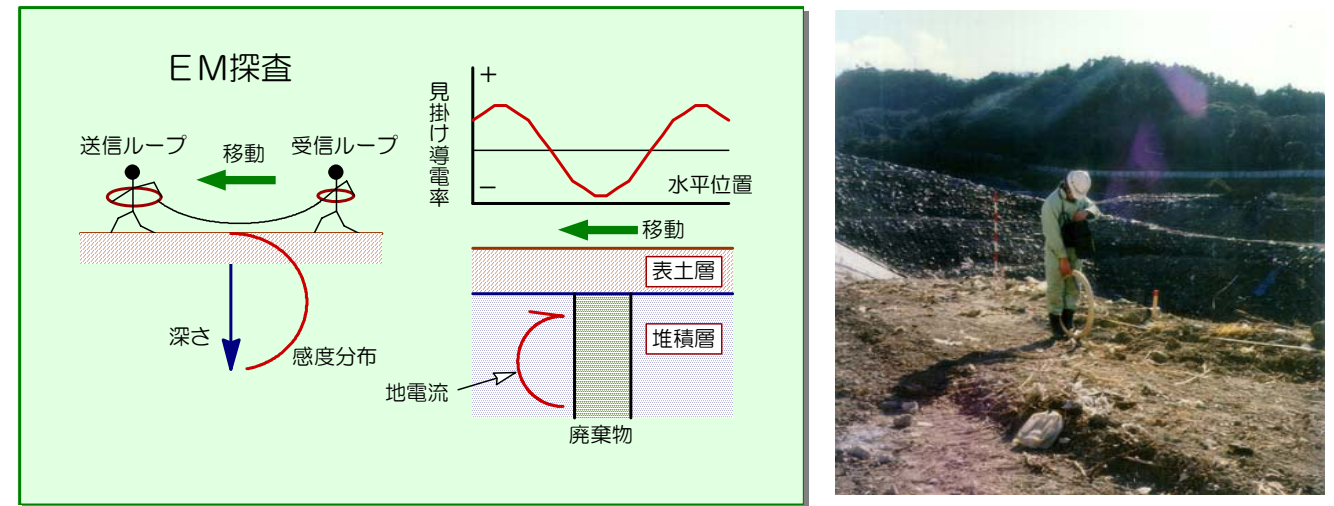
- 深度3 m程度までの探査に利用します。
- 毎秒あたり、25回もパルスを発信しますので、極めて高い分解能を持っています。
- 工場跡地のように、ある程度探査場所が限定され、かつ高い探査精度を求められる対象の探査に最適です。
- 探査地の周辺に金属製品が置かれていても、その影響を極力少なくできますので、概ね探査は可能です。
- 山間部ではアンテナの移動が難しいので、EM探査が最適です。



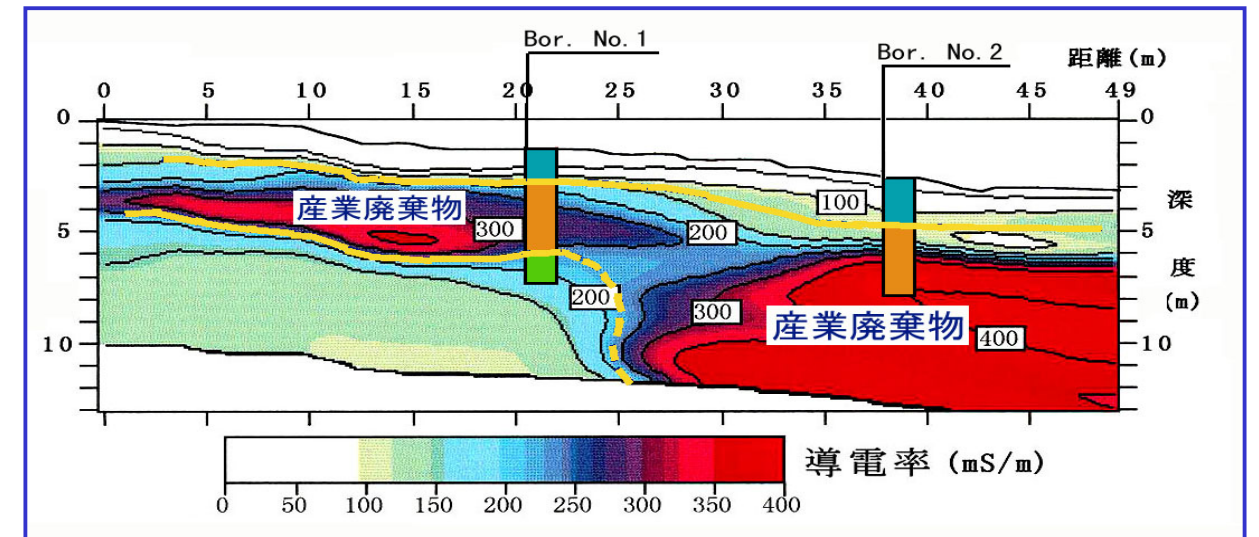
某工場跡地での探査事例

不整地の場合、最新技術を駆使した分布状況調査として、スリングラム式EM(電磁)探査を採用します。

スリングラム EM(電磁)探査



(EM探査結果事例)



スリングラム式EM探査の技術的特徴

- スリングラム EM探査法 は、浅い場所の地質調査を目的で開発された探査装置です。電気探査のように接地電極を使用しないので、「広い範囲」を「短時間」に調査できるという、優れた特徴を持っています(ハイコストパフォーマンス)。
- 探査結果は「平面図」あるいは「2次元・3次元断面図」として表現します。
- サンプリングの調査結果をコントロールポイントとして再解析し、より精度の高い2次元断面図や3次元立体図を作成させ、産業廃棄物の容積を算出します。
- 得られる情報の「導電率」は「比抵抗の逆数」であって、要望により「比抵抗分布図」としての表現も可能です。
- バッテリー駆動の上、アンテナである「ループ」を人力で移動させて計測します。「不整地や林間」などでの探査を最も得意とします。